

2020年度 学校自己評価・関係者評価

学校番号72 長野県木曾青峰高等学校 全日制

学校教育目標	重点目標
<p>広い視野とやさしく豊かな心を持ち、真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人間を育成する。</p> <p>(教育方針)</p> <p>① 自他の敬愛と協力を重んじ、民主的な社会の形成者たるにふさわしい豊かな人間性を養う。</p> <p>② 自主・自立の精神を養い、主体的にして責任ある行動のとれる人間を育てる。</p> <p>③ 学習及び諸活動における真摯・勤勉の気風と切磋琢磨の精神を重んじ、個々の能力の伸長を図る。</p> <p>④ 多様な学習によって、自らの未来を切り拓く力と創造性豊かな個性をはぐぐむ。</p> <p>⑤ 故郷の社会・文化を大切にする心を培い、地域社会の発展に寄与する人間を育てる。</p> <p>⑥ 木曾の豊かな自然を愛し、地球環境の未来を考える視野を養う。</p>	<p>① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。</p> <p>② あらゆる分野で生徒一人ひとりを大切にする教育活動を推進し、生徒の能力や個性を伸ばすことで、進路希望の実現をる。</p> <p>③ 生徒会・部活動などの諸活動を積極的に支援し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。</p> <p>④ 地域社会との連携と開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>⑤ 「夢に挑戦する学び」、「高大接続改革」への対応を進める。</p>

評価 A…よい B…おおむねよい C…不十分

自己評価		学校評議員評価	
学習指導	評価	評価	コメント
<p>授業内容の充実</p> <p>【成果と課題】 生徒の授業への評価はおおむね良好である。年度初めの休校による授業時数減少に対し、土曜授業や夏季休業の短縮を行い、それを補った。</p> <p>【改善策・向上策】 休校期間中には課題配布などで学習支援を行ったが、同様の事態が起きたときにはより手厚い支援を行う必要がある。3月にリモート授業の試行をする予定であり、もしもの時に備えて環境を整えていきたい。</p>	A	A	<p>○ コロナ禍において、ICT教育の重要性がクローズアップされた。校内の環境整備に遅れを生じたが、先生のご労力により無事対応できた。</p> <p>○ 授業参観をさせていただきました。身近な事項を例にあげ、生徒へ分かり易く伝えるなど、工夫されている様子がうかがえました。どの生徒も熱心に聞いており充実がうかがえました。</p>
<p>家庭学習の習慣</p> <p>【成果と課題】 長期休業前には課題の一覧を作るなどして家庭学習の支援をした。日々の家庭学習に対して、今後も声掛けを行っていく必要を感じる。</p> <p>【改善策・向上策】 教科、科目により課題の量と質が異なるので、生徒に家庭学習を行うことの呼びかけを行うとともに、必要に応じて教科間で調整をすることも考えられる。</p>	B	B	<p>○ 家庭学習は、小・中時代から習慣づけが大事と考えます。小・中・高通して連携できればと思います。</p> <p>○ 学校自己評価から長期休み前の課題一覧作成は、どの生徒にとっても分かり易く、有効な支援だと感じました。</p>
<p>授業・補習内容の充実</p> <p>【成果と課題】 夏休み、放課後、土曜日など、さまざまな補習が行われていて、必要な生徒にはよく届いている。</p> <p>【改善策・向上策】 各教科において担当者が適切に配置でき、なおかつその担当者が十分に準備をしたうえで実施ができるよう、補習の計画を適切に行う必要がある。</p>	A	A	
<p>各種資格検定への取り組み</p> <p>【成果と課題】 積極的に資格取得に挑戦する生徒が多く、熱心に学習する姿が見受けられた。</p> <p>【改善策・向上策】 資格取得のための学習の充実と改善を図っていきたい。</p>	A	A	<p>○ 社会に出た時役立つ資格を高校で取得できることは、大変重要な取組みであり評価したい。</p> <p>○ 資格取得に向けた実技の授業を参観させていただきました。皆さん生き活きと取り組んでいる様子がありました。</p>

進路指導	評価	評価	コメント
進路目標の明確化 【成果と課題】 新型コロナウイルス感染拡大の影響から多くの説明会等が中止になった年であった。そういった中でも、オンライン等により自らの人生について考え、進学先、就職先を考えることができています。 学科によって進路は様々であることから、個々に必要な情報を提供することが重要である。	A	A	○高校生において将来の進路について指導されることは非常に重要と考える。コロナ禍においてオンラインにより指導されるのは大変かと思いますが、適切な指導を今後もお願いしたい。
【改善策・向上策】 学習係等とも連携をしながら総合的な探究の時間等も活用し、生徒が自らの目標実現に向けて学校生活を送れるよう、指導を行っていききたい。			
具体的な進路指導 【成果と課題】 各種進路行事に関しては各学年や学科の工夫もあり、成果をあげている。進学・就職に関する様々な情報を学校・分野別に整理しており、資料室等に来る生徒が多い。 大学入学共通テストについては昨年の情報提供や分析を踏まえて、各教科を中心に対応をしていった。	A	A	○生徒の就労支援にかかわらせていただきました。オーダーメイドの支援となったのですが、どれも丁寧に対応してくださり、支援機関としても大変ありがたかったです。
【改善策・向上策】 今後も進路指導係が主体となり、自立した進路選択と進路実現に向けて、3年生はもちろん、1・2年次から進路指導を充実させていききたい。 本年度から変わる大学入試について、本校の取り組み、結果を十分に振り返り、来年度以降の改善をしていきたい。			
進路の実現 【成果と課題】 各種進路行事に関しては各学年や学科の工夫もあり、成果をあげている。進学・就職に関する様々な情報を学校・分野別に整理しており、資料室等に来る生徒が多い。 大学入学共通テストについては昨年の情報提供や分析を踏まえて、各教科を中心に対応をしていった。	B	B	○具体的指導でAの評価をしながら進路の実現においてBの評価は矛盾を感じる。
【改善策・向上策】 今後も進路指導係が主体となり、自立した進路選択と進路実現に向けて、3年生はもちろん、1・2年次から進路指導を充実させていききたい。 本年度から変わる大学入試について、本校の取り組み、結果を十分に振り返り、来年度以降の改善をしていきたい。			

生徒支援	評価	評価	コメント
生徒の人権意識・自己指導力の育成 【成果と課題】 1学年を対象に年に2回のSST、7月にゲートキーパー講座を行い、対人関係を構築するスキル、傾聴の姿勢を学ぶ機会を設けることができた。 授業・部活動・生徒会活動等 生徒が主体的に考え、行動できるよう支援することが出来た。	A	A	
【改善策・向上策】 SSTやゲートキーパー講座で学んだことを、さらに日常生活に生かせるよう、働きかけをしていきたい。 生徒に考えさせ自ら行動に移せるような場面を、より多く設定していきたい。			
社会性の涵養 【成果と課題】 今年度は学校内外のあらゆる活動が制限されたため、地域社会と関わる機会を支援することは難しかった。 次年度以降も、教員の支援がなくても社会と関わりを持つとする生徒、社会の一員であるという自覚が持てる生徒を育成していきたい。	B	B	○社会との関わりをもたせるための具体的な取り組みがよく分からない。
【改善策・向上策】 モラル・マナーの向上、社会性・協調性の涵養を目指し、あらゆる場面で育成の機会であるという認識を全職員が持ち、取り組んでいきたい。			
カウンセリングの充実 【成果と課題】 今年度はコロナ禍の影響で不安を抱える生徒が増え相談件数も増加したが、スクールカウンセラーを活用することでその受け皿になることが出来た。また、スクールソーシャルワーカーを中心とした外部機関と連携することで、校内では解決が進まない問題にも対応することができた。学校生活適応感に関するアンケート（アセス）を実施し、学年や授業担当の担当者を中心に情報を共有することができた。	A	A	○不安を抱える生徒が増えたことは憂慮すべきことと感じる。多感期であるためきめ細かい指導をお願いすると共に、生徒と先生の関わり合いにも十分に配慮されたい。
【改善策・向上策】 相談窓口があることを生徒・保護者に周知すると共に、職員研修なども定期的に行い認識を深め、多様化する生徒への対応がきめ細かにできるようにする。また個人で抱え込むのではなくチームで迅速に対応できるような連絡を取り合える環境を整える。			

特別活動	評価	評価	コメント
自主活動の充実と生徒の自立 【成果と課題】 多くの行事、活動が中止あるいは内容変更となってしまう、不完全燃焼を感じる部分もあった。しかし、生徒たちは連絡を取り合う機会を増やしたり臨機応変に対応したりして、常に全校生徒のことを考えて活動することができた。	B	B	○ニューノーマル社会はこれからの学校生活にも新たな変容に対応できるように学校側も生徒の自治を尊重しよりよい対応をお願いしたい。
【改善策・向上策】 コロナ禍により社会生活が変容している。「例年通り」として行ってきた行事や活動も、これを機に見直し、検討していけるようにしたい。			
地域を視野に入れた活動 【成果と課題】 今年度は、着陵祭や雪灯りの散歩路などで地域の方と交流することができず残念だった。木曾養護学校の生徒さんとは、1回だけだが交流することができた。少人数単位での交流としたため、普段前に出ることが無い生徒も積極的に関わる姿を見ることができた。	B	B	
【改善策・向上策】 来年度以降の活動は見通せないが、このような状況だからこそできることを生徒たちと話し合っていきたい。			

全般	評価	評価	コメント
PTA活動の充実・家庭との連携 【成果と課題】 コロナ感染防止対策のため、PTA総会および地区PTA懇談会を開催できなかった。 委員会活動については、文化委員会の「会報の編集・発行」を除き、活動を自粛していただいた。 感染防止対策に必要な備品・消耗品の購入を補助することで、生徒の活動を援助することができた。	B	B	
【改善策・向上策】 次年度は、PTA活動を通して学校・家庭・地域が連携し、生徒の成長につながる事業が再開できることを希望している。			
情報発信 【成果と課題】 新型コロナウイルス対応特設ページを新設し、関連情報を発信した。また、既存のページの更新については随時行なった。 感染拡大対策や、天候不順による休校、行事の非開催、規模縮小などの見直しで発信できる行事が少なく、青峰now、スクールマガジンともに発信回数が減少した。	B	B	○「スクールマガジン」を地域住民にも回覧していただくことはとてもありがたい。ただ、文字が小さく読みにくいのが残念です。
【改善策・向上策】 行事等の発信は、年度当初に計画を立案し、関係部署と発信内容について調整を行なうことで更新を進められるようにする。			
地域との連携・開かれた学校づくり 【成果と課題】 コロナの関係で行事の中止や内容の変更があり、地域の皆様との連携や学校行事の公開を十分に行うことができず、大変な一年となった。 体験入学は、日程・内容を変更して実施した。参加者数は、昨年度を20名ほど下回ったが、全体会、全学科の授業公開およびクラブ見学等、中学生に本校の様子を十分に伝えることができた。 9月の公開授業週間は予定通り実施したが、参観者数は例年通り少なく、時期や内容の検討が必要である。 課題研究発表会およびインテリア科作品展示会は、生徒の学習内容及び成果を保護者の方々に公開することができた。	B	B	○今年度はコロナ禍で学校開放がほとんどできなかったが、その中で新聞・テレビ・展示等でよくやっていただいた。
【改善策・向上策】 ホームページ等を通して、さらなる広報活動の充実に努めたい。 公開授業は、開催時期や回数等、中学校と連絡を取りながら検討をしていきたい。			
生徒・職員の健康管理 【成果と課題】 コロナウイルスへの感染を防ぐため、生徒・保護者向けの通知を出し、また職員にも情報提供を行った。年度当初は消毒用アルコールなど感染予防の為に必要な物資を十分に揃えることが難しく、生徒職員に不安な思いをさせてしまったが、次第に物品を揃えることができるようになってきた。生徒によるマスクの着用、手洗い、掃除中の消毒が十分でないことが課題である。	B	B	○コロナ禍における校内でのルールは先生の指導不足を感じる。教室は濃厚接触にもなりうるため、きめ細かい指導をお願いしたい。 ○全国的に感染拡大を防ぐことが求められているので、マスクの着用、JR内でのおしゃべりなど、自分ですることに関して意識を高めて欲しい。
【改善策・向上策】 生徒保健委員会の活動にも絡めながら、生徒へのマスク着用・手洗いを促す。清掃係と連携しながら、校内の消毒がきちんと行われるようにする。			
連絡体制の完備 【成果と課題】 一斉メールにより情報を各家庭に伝える事ができた。登録率が100%でないことが課題である。	A	A	
【改善策・向上策】 登録率100%に向け、継続して登録の呼びかけを行なう。 生徒登録と保護者登録の情報の混在が見られるので、登録方法の案内を工夫する必要がある。			